京都精華大学 広報誌

木野通信

KINO PRESS.
KYOTO SEIKA UNIVERSITY

issue 65

特集

キュレーションの未来。

INTERVIEW 1
大学から発信する、
キュレーションの可能性。

INTERVIEW 2
京都国際マンガミュージアムが挑む、
かつてないミュージアム!?

INTERVIEW 3
ファッションにおける、
ことばとキュレーションの役割。

NEWS&Topics
内田樹 講演「今、大学で人文学を学ぶことの意義とは」

CONTENTS

特集
キュレーションの未来。

4 大学から発信する、キュレーションの可能性。

8 京都国際マンガミュージアムが挑む、かつてないミュージアム!?

13 ファッションにおける、ことばとキュレーションの役割。

16 2014年度決算および、2015年度予算について

NEWS & Topics

18 大学ニュース

21 イベント紹介 内田樹 講演「今、大学で人文学を学ぶことの意義とは」

精華生たちの今

22 活躍する卒業生

23 歩みはじめた在学生

KINO PRESS.
KYOTO
SEIKA
UNIVERSITY
issue
65

世界とつながるマンガのチカラ

学長 竹宮惠子
（マンガ学部ストーリーマンガコース教員／マンガ家）

涼やかな秋風が吹きはじめた木野キャンパスに、学生たちの活気が戻ってきました。平成27年度・後期のスタートです。学生たちがこれまでの学びを糧に次のステップを踏むのと同じく、本学の改革も新たな段階に差し掛かろうとしています。学部やコースの垣根を越えてコラボレーションを実現するカリキュラムなど、来年度より実施予定の教育改革プログラムが実際に現場で機能するかどうかを検証する、きわめて重要な時期です。その実践から新たな課題が浮かび上がり、よりよい方法・手段が導き出されることと思います。

さて、今回の特集テーマである「キュレーション」ですが、一作家として、また教育者としても、京都国際マンガミュージアムのキュレーション活動には大変強い思い入れがあります。私がリーダーを務める「原画′（ダッシュ）」プロジェクトもそのひとつです。マンガの原画は、本来の色合いや下描きの様子など、製本された作品では感じ取ることのできない、描き手の魂が宿っています。原画ダッシュは、そんな貴重な原画をデジタル技術で守りながら、多くの人にその歴史的・文化的な価値に触れてもらうためにはじまったプロジェクトです。コンピューターに原画を取り込んで色調整を重ね、本物と見分けがつかないほど精巧な原画複製の技術を確立し、「原画紛失・破損の恐れのない展覧会」の開催を可能にしました。出展先は国内のみならず、海外にまで及んでいます。

アメリカやフランスで開催したときの反響の大きさからも、私自身、日本のマンガに対する関心の高まりをひしひしと感じています。留学生に聞いてみると、作画技術やストーリーもさることながら、そこに描かれる日本の風習にも強く惹かれるのだとか。つまりマンガには、その単体の文化のみならず、背景にある日本文化を発信するというメディア機能も備わっているのです。歴史都市・京都に構える京都国際マンガミュージアムがその中心的な役割を果たせるよう、私も一研究者として貢献していきたいと考えています。

特集
キュレーションの未来。

吉岡恵美子

Yoshioka Emiko
まだ開館準備室だった2001年から、金沢21世紀美術館で展覧会企画、調査、研究、収集にたずさわる。2014年から京都精華大学芸術学部、大学院芸術研究科教員。

大学から発信する、キュレーションの可能性。

ART
curator

金沢21世紀美術館のキュレーターとして、
グレイソン・ペリーの個展や『内臓感覚―遠クテ近イ生ノ声』
といった展覧会を手がけてきた吉岡恵美子さんが、
昨年度、京都精華大学芸術学部の准教授に就任されました。
1年をかけて学生にキュレーションを教えながら、
最終的には1本の展覧会を成立させることを目標にして、
今年2月には京都市内ふたつの会場で『知らない都市』展を実現。
吉岡さんの考えるキュレーションは、
大学という舞台でどのように展開されるのでしょうか。

学芸員とキュレーター

――日本でもっとも注目度の高い美術館から大学へ。どんな理由がありましたか。

吉岡　まず、自分としては、転職をしたという気持ちはそれほど大きくないんです。そもそも美術館は、法的にも社会教育施設として扱われていて、とくに地方都市で現代美術を扱うとなれば、ただ調査研究して展覧会だけをやっていればいいということはなくて、子どもから大学生、大人まで、常に関わりがありましたし、教育普及への意識は高いものがありました。それでも、美術館は、コレクションを管理して守っていくことが活動のなかで大きな割合を占めますので、すごくもどかしい思いもしていて。2013年には、金沢21世紀美術館で自分の研究の集大成ともいえる展覧会（『内臓感覚』（※1））を成功させることができ、ひと段落ついたタイミングだったのもあります。

――教育普及の意識は学芸員のころからあったので、大学への転職も自然だったんですね。

吉岡　そうですね。それに学芸員ではないけど、今もキュレーターではありますから。

――つい、学芸員とキュレーターを混同してしまいます。

吉岡　もともとは美術館で働く専門職が学芸員と呼ばれていて、そんなにフリーのキュレーターもいないころは、展覧会は美術館の学芸員がつくるものという、その認識で問題ありませんでした。だけど、英語圏のキュレーターという言葉が90年代ごろから日本にも浸透し、フリーで活躍される方も出てくると、美術館の学芸員だけが展覧会をつくる人ではなくなってきた。ちなみに、金沢21世紀美術館は欧米型をモデルに専門職を採用していたので、準備室時代に私が入ったときから、キュレーター、エデュケーター、アーカイヴィスト、プログラムコーディネイターとはっきり分業されてました。それでも外向けには、キュレーターのことを学芸員と呼ぶこともありましたけど。その方が伝わりやすいので。

――学芸員がいろんな職能を兼ねなければいけない施設も多いなか、金沢21世紀美術館は当初から分化していたんですね。では、キュレーターの仕事ってどう定義づけられるのでしょう。

吉岡　金沢21世紀美術館では、調査研究をして展覧会をつくり、コレクションを生成していく役割でした。ただ作家を紹介するだけじゃなく、どういう切り口で、どの部分を掘り下げて、今この時代に何を見せるかを考えて、展覧会を構成していくとえていくかに関して、キュレーターは作家以上に気にしなければいけない。そこが作家との大きな違いです。キュレーターでもいろんなタイプの方がいますけど、私の場合は、いろんな人を巻き込んで、場をつくっていくのが好きな方なので、展覧会を立ち上げたらそれで終わりではなくて、展覧会というステージにどういうプログラムをつくっていけば、展覧会がより伝わり、より深められるのか。そのために、関連プログラムを多角的に組み合わせていました。

――展示だけでは伝えきれないという感覚があるんですね。

吉岡　確かに展示は、作家や作品と観客をつなぐ基本のフォーマットです。だけど、作家が必死になってつくった作品があって、公立の美術館だと多額の税金も投入されていますから、それを100％伝えきる大きな責任があるんです。だから、やれるだけのことはやっておきたいという気持ちになってくる。そういうコーディネーションも含めて、キュレーションだと私は思っています。

学生とのキュレーション

――昨年度、大学での授業の成果として、学生企画の展覧会『知らない都市 distant neighborhood』（※2）が開かれました。伊藤存、中村裕太という魅力的な顔合わせによる二人展でしたね。

吉岡　伊藤存、中村裕太という作家のセレクトは、学生から出てきたものです。企画書を書く訓練もいろんな形でやったのですが、たとえば3人のグループ展をつくるというお題を出すと、それぞれの学生が企画書で挙げてくる作家は全然かぶらないし、どのセレクトもかなりおもしろかったのが意外でした。学生も作家の卵ですから、気にしている作家や見ている方向についてはヒントが合ってるんですね。

――作家のセレクトに関しては、吉岡さんも学生に教えられるところがあったと。

吉岡　そうですね。学生のプレゼンテーションをきっかけにして、関心をもった作家の個展を見に行ったりもしました。ただ、たった1年で、キュレーションはもちろん、企画書を書いた経験もない学生と展覧会をつくるところまでもっていくのは、かなりハードです。だから、本当にやりたい学生しか残らないんですけど、私が教えることだけじゃなくて、今活躍している作家から学べることがとても大きいんじゃないかと思います。展覧会の企画をもちかけて、作家からプロポーザルが出てきて、いっしょに展示プランを考えて、実

※1『内臓感覚 - 遠クテ近イ生ノ声』
2013年4月27日～9月1日｜金沢21世紀美術館　表現ジャンルも世代も異なる、国内外13組の作家を取り上げて、人間の根源的な「内臓感覚」に響き、新たな近くの目覚めにつながるような世界を浮かび上がらせた。改めて関連プログラムを振り返ると、出品作家によるトーク、パフォーマンスやライブをはじめ、ワークショップクリエイターによる企画、文化人類学者の講演、ベビーカーツアーなど、幅広く充実したラインナップ。

というのは、わりとクリエイティブなことだと思います。だけど、それをどう外へ伝

際に現場で展示を立ち上げる。大変だけど、すごく勉強になったと学生も話してました。

――今年の夏には、『知らない都市 INSIDE OUT』（※3）という続編的な展覧会が学内のギャラリーフロールで開催されました。

吉岡　今年度、フロールで企画展をやってほしいと大学から打診されて、そんなに時間もないなかでやれるとしたら、学生がつくった展覧会を私が引き取って、さらに発展させた第2章のような形ならできますって答えたことから実現したものです。昨年参加していた2人の作家に、より動的で都市のカオスな観点を与えてくれる3組を私がセレクトして、5組のグループ展として実現しました。こういう形で展覧会が発展していくって、あまり聞いたことがないんですけど、昨年、展覧会をつくった学生がまだ4年生として在学していたので、積極的に手伝ってもらって。そういうバッググラウンドは外部の鑑賞者には見えないところですけど、教育的な点でも意義がある流れになったかなと思っています。

――そうやってお聞きすると、美術館ではできない展覧会になっているようです。

吉岡　美術館のような場で時間をかけてきっちりとつくっていく展覧会とはまた違って、現場でフレキシブルに考えながら、よりライブ感のある展覧会になっていました。

――参加する作家にとっても違う体験でしょうね。

吉岡　そうですね。大学においてたくさんのお金をかけて完成度の高い展覧会を行うことが一番の目的じゃなくて、もちろんある一定の完成度は達成して話題にもならなくちゃいけないけど、それよりもいろんな人が関わって、それぞれに刺激を受けつつ、ライブな発信の場みたいなものがつくっていけたらいいですね。じつは、冬にもフロールで企画展を準備していて、それは建築学科とのコラボレーションで進めています。

――また違った角度からの展開なんですね。

学内にあるギャラリーフロールを盛り上げたいという気持ちはもちろんですけど、私ひとりが動きまわって、大学と関係のないアーティストばかりを集めてくるよりも、ここにはいろんな専門の先生と学生がいるわけだから、やっぱり多くの人と関わって、展覧会をつくっていけたらいいかなと思っています。

――ちなみにどんな展覧会になるんでしょうか。

吉岡　建築家の藤本壮介さんが客員教授として大学に来られていて、学生とワークショップ形式で授業をされる予定だと聞いたので、その授業のなかで学生たちがフロールに仮設の図書館、本棚をつくる監修をしていただこうと考えています。そのうえで、本学の先生方や学外の著名人たち10人程度に、本をセレクトするブックマスターになってもらって、本がゆったりと読めるような場をつくれたらと。会期中は、関連プログラムもたくさんやりたいと企画中です。

伊藤存・中村裕太《具のつかい道》
『知らない都市―INSIDE OUT』展展示風景
撮影：表恒匡

――大学だからこその場、人脈をフル活用ですね！

吉岡　そうかもしれません。大学に移って時間に余裕ができたでしょって言われることもあるんですけど、逆にどんどん忙しくなってきて、あれ？おかしいなと（笑）。来年は、瀬戸内国際芸術祭のこともありますし、大学とは関係なく、京都市内のスペースで展覧会もひとつ予定しています。間違いなく言えるのは、どんな場所であってもそこでしかできないことがあるということ。

――大学でも、美術館でも、それは本当にそうですね。できることを最大化した吉岡さんの今後のキュレーション、楽しみにしています。

※2『知らない都市　distant neighborhood』
2015年2月1日～8日｜kara-S、つくるビル104A　出品作家：伊藤存、中村裕太

※3『知らない都市　INSIDE OUT』
2015年7月4日～8月2日｜京都精華大学ギャラリーフロール　出品作家：伊藤存、contact Gonzo、志賀理江子、dot architects、中村裕太

『知らない都市』展に連続参加した伊藤存さんは展覧会をどう見ていたか。

文／伊藤存

『知らない都市』展は、まだ寒い春と真夏に2度開かれました。最初は中村裕太さんとの二人展で、僕は中村さんとキュレーターの吉岡さん、学生たちとは初対面でした。中村さんとは作品のスタイルも違いますし、どんな展開になるのかも分からない手探り状態です。選んでくれた吉岡さんと学生たちを信じてやるしかありません。そもそもグループ展のイメージというのはキュレーターがもっているもので、作家にとっては未知の領域である（あってほしい）ものです。

1回目の展示では意外に中村さんの作品と僕の作品の相性の良いことが発見でき、なるほどなと感じさせられました。中村さんとは作品だけでなく、トマソン現象、など路上観察の話で盛り上がり、路上観察をベースに素焼きの陶器のオブジェを造形するというワークショップを行うことに。このワークショップには、参加者の成果物を2回目の『知らない都市』展に出品してみたらおもしろいかも、という密かな企てがあり、それを知らないまま吉岡さんと2人の学生たちも参加してくれました。『知らない都市』展に展覧会企画者の作品も紛れ込ませるという作家側の企ては、プリミティヴな素焼きの造形のおもしろさも手伝って、展覧会に素朴な「知らない都市」を加えることに成功したと思います。もちろん、二人展だった1回目から、3組の作家が加わった2回目の『知らない都市』展はさまざまな未知が含まれていて、展覧会として成長していました。そして、3回目はいつあるんだろうと思えるような興味深い展覧会に参加することができて、光栄に思っています。

地域アートにおける キュレーションの力。

『大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ』に
企画協力という形で参加した吉岡恵美子さんは、
今年の現場をどう見たのか。改めて、キュレーションについての
考え方とともにご寄稿いただきました。

ひとくちに「キュレーション」といってもいろいろです。キュレーターの役割や意義にひとつの答えはありません。私がこれまで関わってきた展覧会は、作品を展示するためのスペースを会場とし、観客の一定の割合は美術に関心がある層が占め、展示作品は「芸術である」もしくは「芸術とは何かを問うている」という意識が暗黙の了解としてありました。展覧会のテーマに基づいて作家と議論を重ね、出品作品を選び、展示空間の物理的特性と動線を考えながら、展示全体として構成をはかっていくのがキュレーションの一般的なスタイルといえます。

今年の夏、第6回目となる『大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ』が新潟県十日町市を中心とする越後妻有地域を舞台に開催されました。初回の2000年以降、参加する作家や地域、来場者やサポーターの数も増え、国内における数々の後発の芸術祭のなかでも最大の成功例として定着しています。京都精華大学有志は、越後妻有の東端に位置する枯木又集落の廃校を会場に、2009年から芸術祭に参加しています。私は昨年の中盤から、枯木又地区での展示に企画協力として関わってきました。具体的には、枯木又の出品作家作品案、展示構成案をまとめ、総合ディレクターを務める北川フラム氏にプレゼンして予算を獲得し、作品制作展示のマネージメントに関わります。芸術祭開幕後は運営をサポートします。簡単にいうとこれがこの場合のキュレーションの中身です。芸術祭全体のコンセプト設定や戦略づくり、作家と予算分配の決定を行うのは北川氏とそのチームです。しかし、このように大規模な芸術祭ではキュレーションのすべてをひとりで行うことは不可能で、コーディネーターやキュレーターが適宜関わるのが実情です。

『大地の芸術祭』の舞台となるのは集落が点在する中山間地域です。作家たちはしばしば、住民らが昔から大切に守っている場所や思い出深い場所に作品を展示したいと望みます。そしてしばしば、地域の自然や集落の記憶、独自の生活文化、近代合理主義の陰で地方に残された課題などに関連づけた作品を手がけます。必然的に地域との継続的で親密な接続なくしては成立しません。作家はおおむね自ら地域に飛び込み、自分が表したい何かを探り出していくなか、キュレーターの役割は作家らとともに地域と関わり、彼らがその個性と才能を生かしつつも普段のスタイルや方法論の枠を超えて何かを表現として浮かび上がらせる手伝いをすることだと考えています。

『大地の芸術祭』の成功を機に、日本でも地方を舞台とする芸術祭が軒並み増えましたが、ブームともいえるそういった現象の構造の問題と批判性の薄さが近年、指摘されてもいます。作品が住民を含む鑑賞者の心を揺り動かす力を持ちうるか。芸術祭という非日常における刺激を鑑賞者が日常に持ち帰ったときに何かを考えさせるきっかけになりうるか。そのような意識を持って全体の橋わたしができるかどうか。地域アートにおけるキュレーションの力が試されるのはそういうところにあるのではないでしょうか。

文／吉岡恵美子

内田晴之《大地の記憶》

吉野央子《環の小屋》

小松敏宏《供物》

イ・ヒョンウ《無題》

吉本直子《わたし、呑み込んではまた空になるチューブなの。》

中島加耶子《最後に継ぐ家》

小出麻代《プリズム》

京都国際マンガミュージアムが挑む、かつてないミュージアム!?

2006年11月、京都中心部にある旧龍池小学校に開館した京都国際マンガミュージアム（以降、MM）。
30万点を超えるマンガ資料、そして館内のいたるところでマンガを読む来館者の姿を知る人は多いはず。
ですが、館内で開かれている展覧会に注目してみると、既存のミュージアムのあり方さえも問い直すような、
そのキュレーションの実験は多くのヒントに満ちあふれています。まずは、吉村和真さんにお話をうかがいました。

撮影は『マンガと戦争展』（2015年6月6日〜9月6日）会場にて。２軸マップが視覚化されたような会場構成は、京都を拠点に活躍するRADによるもの。

伊藤遊
Ito Yu
1974年生まれ。京都精華大学国際マンガ研究センター研究員。共著に『マンガミュージアムへ行こう』（岩波ジュニア新書）。

吉村和真
Yoshimura Kazuma
1971年生まれ。京都精華大学国際マンガ研究センター長。京都精華大学マンガ学部教員。著書に『複数の「ヒロシマ」記憶の戦後史とメディアの力学』（青弓社）。

倉持佳代子
Kuramochi Kayoko
1983年生まれ。京都精華大学国際マンガ研究センター研究員。

——MMにおける展覧会の位置づけを教えてください。

吉村　マンガってやっぱり読むものですから、マンガを展示するということへの疑問は開館時からありました。原画を展示して見せたとしても、それで本当にマンガのおもしろさを伝えることになるのかどうか。実際、一般的なミュージアムのフォーマットにマンガを当てはめていくだけでは、すでにある美術館には負けてしまいますから。そこで開館して最初の5年間は、マンガミュージアムとは一体何なのか、メディアとしてどんな可能性があるのか、その模索を続けました。資料を収集して、その資料を僕らが研究して、研究成果を展示で見せて、展示を見た人からの意見をフィードバックして、というサイクルの繰り返しですね。

——ただ、貴重なマンガ資料を集めてきて展示すればいいというものではないと。

吉村　わかりやすい事例を挙げると、MMは資料の寄贈が大変多くて、年間1万冊くらいはあります。寄贈の理由はさまざまなんですが、やっぱりマンガって後生大事に持つものじゃなくて、捨てるものなんです。そうやって捨てられていくものを僕らは集めて、展覧会として見せるために料理するわけなので、何億円という価値がついた美術作品を展示する美術館とはまったくベクトルが違いますよね。

——マンガの世界でも原画だと美術品に近いのではないですか？

吉村　メガヒットしているマンガの原画に関しては、展覧会の数ももの すごく増えてきましたし、出版社もその価値を上げていこうとする動きは活発になっています。だけど、世の中で読まれているマンガなんて本当に山ほどあって、多くのマンガの原画は誰も体系的に保存してません。亡くなった作家のご遺族が抱えていてどうしようもないという例もたくさんあります。先日も、あるマンガ雑誌の編集部が作家に原画を返そうとしたら、「そんなものいらない」と言われたそうで、捨てられそうになっていたのでMMでいただいたんです。だけど、昔のマンガだから背景も手抜きで、原画で見たからって特別な感動があるわけじゃない。そうした原画の価値をどうやって上げていくことができるか、その価値創造性をまかされているのがMMなんです。そう考えると、とてもスリリングでしょ。

MANGA
curator

——すでに価値のあるものじゃなく、価値の不確かなものを扱ってると思えば、確かにシビれますね。

吉村　原画を必ずしも崇め奉っているわけではないので、MMに来る海外の研究者からは、「ここはミュージアムじゃない！」って反発されることもありますよ。展示している原画も必ずしも多くないですから。ただ、いわゆるミュージアムのフォーマットで期待されるとそうなりますけど、そもそもマンガは大量複製印刷による娯楽ですから。だから、これまでのミュージアムで決められてきたルールをどうやってマンガで壊していけるか。MMでの展示を考えることは、裏を返せばミュージアムとは何か、そこにおける展示とは、キュレーションとは何かという問題を投げかけていくことでもあるんです。

——これまで、個々の展覧会でどんな実験がなされてきたのかは、あとで研究員の伊藤さん、倉持さんにお聞きするつもりですが、MMを総括的に見て言えることは何かありますか。

『マンガと戦争展』展示風景　撮影：松見拓也

てひとつわかったことは、展示を見たあとにそのマンガを読みたいと思わせること、そしてその現物をすぐ手に取れるように用意しておくということです。そもそもどんなにいい展覧会をしても、展示を見る人が来館者の50％を超えることはないんです。みんなMMにマンガを読みに来てるんですね。だから、そういう人たちに展覧会にまで関心をもってもらって、楽しんでもらわないといけない。そこは常に考えています。

——開催中の『マンガと戦争展』でも、マンガの一部が必ず掲示されていたので、時間の許す限りそのマンガを読んでいたい気持ちになりました。

吉村　『マンガと戦争展』は、それぞれのマンガを10ページ分、その前後が気になるように展示しました。MMの施設としての強みは、ミュージアムとライブラリーと両方の機能を備えていることなんです。圧倒的なマンガの海の中で展覧会を開くことができる。だからこそ、展示だけで独立するのではなくて、実際にマンガを読んでもらうための素材として展覧会を考えてもいい。『マンガと戦争展』でいえば、すべてが平和を訴えるマンガじゃなくて、安いメロドラマもあれば、なかには戦争を煽っているようなものもあります。でもそれも全部ひっくるめてマンガだし、マンガなんて玉石混交なものですよね。

——原爆というテーマで、長崎を題材にしたマンガも紹介されていましたね。

吉村　そう、原爆といえばほとんど広島ですから。ものすごい数のマンガがあるからこそ、比較対象できる素材もたくさんあるんです。僕の関心からすれば、いくつかの有名なマンガより、読み捨てられてきたマンガの影響力にこそ目を向ける必要があると思っています。みんなが「マンガなんて…」って思えば思うほど、人の考え方や価値観に与える影響力は深くて広いものになる。だから、こんなの展示してどうするのってことも辞さずに、問題提起型というのか、マンガの影響力が自覚されるような展示を考えていきたいですね。

——最後にこれから企んでいるようなことがあれば教えてください。

吉村　これまでに展示したのは、すでに出版されたマンガばかりでしたけど、展示のためにマンガを描いてもらうことができたら、いろんな状況が変わってくると思っています。さすがに毎週は無理にしても、月に1回、展示だけで連載していくようなマンガがあれば、描き方からすべて違うものになる。そのためのマンガの技術、方法論が出てくると、もっともっとシーンがおもしろくなるはずです。

京都国際マンガミュージアムのキュレーション力を点検！

来年10周年を迎えるMMがこれまで開催してきた企画展から、キュレーションが際立つ８つの展覧会を選出。
担当した伊藤研究員、倉持研究員にコメントをいただきました。

伊藤遊
「展覧会だけを目的にすることはなくて、そのベースには必ず研究があります。全作品のリストや年譜をつくることも美術展だったら当たり前なのに、マンガ展だといい加減なことが多い。そこはふまえたうえで、美術館じゃないからこそできる新しいミュージアムの像を提示していけたらいいですね」

1 彼自身によるメビウス
2009.5.4 ― 6.7

展覧会をきっかけに来日したメビウスと、大友克洋さんや村田蓮爾さんとの対談イベントを開きました。今やレジェンドといえるマンガ家たちが「海外マンガにものすごく影響を受けた」と発言したこともあって、その後、海外マンガの翻訳出版がものすごく盛んになりました。マンガというナマの文化を扱っているからこそ、同時代の文化にも影響を与えられる可能性があるんです。

2 赤塚不二夫マンガ大学展
2011.10.29 ― 12.25

展覧会準備中に赤塚さんが亡くなられて、急きょ、決まった別の追悼展で原画が大量に展示されたので、うちでは原画を使わずに展覧会を開くことに。新聞に載せた1コママンガや大阪万博の解説マンガ本など、単行本にも収録されてない珍しい資料をたくさん展示しました。ギャグは時代の産物ですから、展示では、ギャグマンガの歴史と世相の動きを合わせて紹介しました。

3 土田世紀全原画展
2014.5.31 ― 8.31

2012年に急逝した土田さんの原画が18000枚も遺されていたので、すべてを展示したんですけど、今後、マンガ業界として原画のアーカイブをどうしていくかを考える契機にもしたくて。そこで、床にも原画を置いて、踏みながら見ていくような展示構成にしました。どうして原画を踏むことに罪悪感を感じるのか、議論が起こればいいなと。そういう話をシンポジウムの場でも話し合いました。

4 横山祐一<これをネオ壁画と呼ぶ>
2015.3.7 ― 5.31

本で読むのとはまた別の体験をしてもらいたいので、全身で体感するような空間づくりを心がけています。もっとも単純なやり方は作品を大きくすること。この展覧会では、横山さんの描き下ろしマンガをミュージアムの壁面いっぱいにプロジェクションマッピングしました。砂の世界の話だったので、原画を展示した部屋は床全面に砂を敷き詰めて。MM運営スタッフからは嫌がられましたけど（笑）。

FASHION

curator

蘆田裕史

Ashida Hiroshi

国立国際美術館研究補佐員、京都服飾文化研究財団アソシエイト・キュレーターなどを経て、2013年より京都精華大学ポピュラーカルチャー学部ファッションコース教員。二条城の南にある、若手デザイナーの服を扱うセレクトショップ「コトバトフク」、同階にあるファッション専門の「ギャラリー110」の運営委員も務めている。

ファッションにおける、ことばとキュレーションの役割。

ファッション批評誌『vanitas』は、ファッションをテーマに掲げながらテキストを中心に編集された、かつてない年刊マガジン。これを立ち上げ、編集を手がけている蘆田裕史さんは、現在、京都精華大学ポピュラーカルチャー学部ファッションコース教員です。今のファッション界に足りないもの、そこでキュレーションが果たす役割についてうかがいました。

――自費出版で『vanitas』を出し続けること。まずは、その意味をお聞きしたいのですが、その行為をキュレーションと呼ぶこともできるでしょうか。

蘆田　そうですね、僕の中ではそう考えています。『vanitas』の編集と批評、執筆活動、ギャラリー運営など、僕がすべてにおいて念頭に置いているのは、ファッションおよび文化を育てることです。その意味では、文化や土壌、人を育てる、世話をするということをキュレーションとして考えています。キュレーションということばの語源をたどると、ラテン語の「curare」に行き着きます。これは「世話する」「保護する」といった意味です。また、中世においてキリスト教の司祭を表すことばが「curate」、人びとや財産を管理する人という意味だったらしいんですね。キュレーションがもともともつ、そうした意味を前面に押し出した方がわかりやすく、他のことばとの対比もしやすくなると思います。

――『vanitas』創刊の動機として、ファッションのことばが足りていないと書かれていましたが、その意味をもう少し教えてください。

蘆田　たとえば、展覧会に限ったとしても、批評ということばがなければ良い作品を選ぶこともできません。さらに、批評するにはそれに先立つ理論がないとできない。美術批評においても当然、美術理論が必要です

京都国際マンガミュージアムの
キュレーション力を点検！

倉持佳代子

「マンガだから集客があるという考え方ではなくて、作品のことをちゃんと調べて、作家さんへのリスペクトの気持ちがあることが重要です。そして、展覧会をやることで作家さんにちゃんと還元されて、最終的にマンガそのものが売れるようにならないといけないと思っています」

1　ぜんぶ！やなせたかし！

2010.10.2 ― 12.26

私はマンガと絵本に関心があったので、まずはやなせさんでしょうと。やなせさんは、雑誌『詩とメルヘン』の編集長も務めていて、少女マンガの前身にあたる「抒情画」を再評価した人でもあり、永田萌さんをはじめとする多数の絵本作家を見出した人でもあるのです。絵本作家にして、マンガ、詩、編集…あらゆるジャンルで功績のあったのが、やなせさんなんです。

2　原画’（ダッシュ）プロジェクト

*国内外で展覧会多数（フランス・ポンピドゥーセンターでは 2012.2.27 ― 3.4）

MMができる前の01年から竹宮恵子先生がリーダーとなり進めている、原画の汚れまで再現した複製原画をつくってアーカイブするというプロジェクトです。とくに海外では原画を見たいという要望が強いんですけど、原画ダッシュだと安心して貸すこともできます。マンガ黎明期を支えた世代を中心に、毎年コンスタントに原画ダッシュを作り、作家のオーラル・ヒストリーも意識しています。

3　バレエ・マンガ　永遠なる美しさ

2013.7.13 ― 9.23

バレエの専門家らも交えて研究会を何度も開いて、その成果を展覧会にしました。展示では、バレエというモチーフで少女マンガ全体の歴史を見通せるようにして、バレエの衣装をお借りして、赤いトゥシューズに画鋲を置いたようなモニュメントもつくりました。パリ・オペラ座のバレエダンサーも見に来てくれたのですが、驚いていました。西欧では、バレエはハイカルチャーなので、新鮮だったようです。

4　Kyoto MaGiC 展覧会

2012.3.30 ― 7.1 ／ 2013.3.20 ― 6.9 ／ 2014.3.23 ― 6.8

少女マンガのファッションを現実に再現して、ファッションショーと展覧会をするという企画を京都市と3年間やりました。3次元化することでマンガのファッションの魅力も再発見できましたね。そのマンガを読んだことがない人でもわかるよう、ショー構成でもコマを抜き出した映像や照明の演出などの工夫をしました。3年目には、実際に高校の制服に採用されることも決まったんです。

よね。ある服のことを「カワイイ」と言うだけではその人の主観にすぎなくて、なぜそれが「カワイイ」のか、今この時代になぜこれが売れるのかを論理的に語ることができなければいけないんです。そのためには、現代のファッションにも理論、そして批評のことばが必要になってくるということです。

――ファッションを語ることばがないというのは、とくに日本に固有の状況でしょうか。

蘆田　世界的にもファッションの世界でことばは不足していますが、90年代後半ごろから、ファッションの学術誌みたいなものが刊行されはじめているので、少しずつ状況は変わってきてはいます。ヨーロッパには、大学にファッション論やファッション・キュレーションのコースや研究所があったりします。そういう意味では、日本はまだまだ遅れていますね。

――そんな中、『vanitas』という一石を投じられて、その反響は大きかったのではないですか。

蘆田　やっぱり自費出版でやってるので、そこは細々とです（笑）。でも、僕たちは大きなことを1回だけやるのではなく、細くとも長く続けていくことが大事だと思っています。

――『vanitas』を刊行することでわかったことは他に何かありますか。

蘆田　書き手の不足です。ファッションで理論的な文章を書きたいと思っても、ファッション雑誌はそういうことに興味がないので、そうした文章が載る場がない。そこで書き手を増やすためにも、論文を公募しています。『vanitas』は1年に1冊の小さなメディアかもしれないけど、書いた文章を投稿する宛先があるだけで違うと思うんですよ。それもキュレーション＝面倒を見るということだと思っています。そして、キュレーター的役割を果たせる人も少ないですね。自分の視点でものを見ることができるような人がファッション業界にはまだまだ少ない。

――確かに、音楽や映画のような他のポピュラーカルチャーと比べたときに、ファッションをことばにできる人は批評に限らずなかなか見当たりませんね。オシャレ／オシャレじゃないという話はたくさんありますけど。

蘆田　ショップのバイヤーやストリートスナップを撮る写真家だってキュレーター的な存在になりうると思うんですよ。『FRUITS』というストリートスナップの雑誌がありますが、ヨーロッパやアメリカでは本になって出版されています。海外の人からすれば、日本のファッションってこういうものなんだと認識されている。ただ、それはある特定の時代のあるひとつのシーンでしかないのに、メディアがひとつしかないとそれ以外のイメージが伝わらない。たとえば、地方都市でも意識的に視点をもってストリートスナップを撮影し続ければ、『FRUITS』とはまた違った日本のファッションを伝えることができるはずですよね。

――写真を撮って発表することだけでも、視点が定まっていればキュレーションになりうると。

蘆田　そもそもファッションの歴史というのが貴族やブルジョワといった特権階級の服の歴史なんですね。庶民の服はファッション史の本に出てこない。それと似た構図が今でもあって、東京のファッションといえば原宿だとか、あるいは東京コレクションに出ているブランドだとか、全体のごく一部だけを見て、日本のファッション史として語ってしまうことがちょっと問題だと思っています。複数の視点が立ち上がってくるような状況をつくらなければ。

――ショップのバイヤーがもっと意識的に発信するだけでも、違った景色が生まれてきそうですね。批評家、写真家、バイヤー、キュレーター…どんな立場であれ、意識的にファッションを扱う層が厚くなればいい。

蘆田　ただ、服って美術や映画などに比べると、情報量がとても少ないんです。ひとつの服をことばで表そうとしても、白いスタンドカラーのシャツでボタンはいくつ…と、表面的な情報ばかりになってくる。だから、どういう背景をもつブランドだとか、デザイナーはどうだとか、そういったことを伝えるための工夫は必要です。服だけを見せても何もわからないかもしれない。だったらどうやって伝えていけばいいか、それを考えるのがキュレーターの役割になると思います。

『vanitas』（ヴァニタス）
2012年、蘆田裕史と批評家の水野大二郎が立ち上げ、その後も年1冊のペースで編集、発行を続けている。これまで、ヴァレリー・スティール、北山晴一、西尾美也、森永邦彦などにインタビュー。2015年9月刊行の第4号では、「アーカイブの創造性」をテーマに特集。「一般には売れなさそうな地味なテーマ、でも重要です」と蘆田さん。

2014年度決算および、2015年度予算について

2014年度決算について

2014年度の帰属収入は前年度から2億7千万円減少し、62億3千万円でした。このうち学生納付金は81.2%を占めています。

この中から学内施設の諸改修工事や情報通信ネットワークの整備等で1億円の施設関係支出を行いました。また、コンピュータ教室の設備更新、その他経常的な備品の充実等で1億5千万円の設備関係支出を行いました。なお、当年度の施設・設備関係支出には、学生食堂のリニューアルや情報館に配架する図書・視聴覚資料の拡充等に関する費用も含んでおり、その一部には教育後援会からの寄付金を充当しました。さらに、固定資産に関わる借入金の返済額や除却による減少額等も含め、基本財産取得に関わる金額を示す基本金組入額は2億3千万円となりました。

消費支出（人件費・経費等）は60億4千万円で、当年度の消費収支は4千万円の支出超過となり、この結果、累積消費支出超過額は41億9千万円に増加しました。しかしながら、基本金組入前の収支は収入超過を維持しています。

支払資金（現金・預金）は前年比2億2千万円増の19億6千万円となりました。但し、固定資産の減価償却や除却による減少額が取得額を上回ったため、大学の資産全体としては2億3千万円が減少しました。一方、借入金の返済等により、負債は4億2千万円が減少しました。これらによって、自己資金は1億9千万円増加しました。

以上の結果、自己資金率は1.2%上昇し、82.5%となりました。

2014年度決算　2014年4月1日から2015年3月31日まで

資金収支計算書

（単位:円）

収入の部	
科目	金額
学生生徒等納付金収入	5,053,583,300
手数料収入	41,479,697
寄付金収入	53,560,004
補助金収入	504,024,892
国庫補助金収入	503,745,000
地方公共団体補助金収入	279,892
資産運用収入	103,717,370
資産売却収入	552,181,504
事業収入	268,255,569
雑収入	183,836,289
前受金収入	1,431,721,752
その他の収入	807,911,409
資金収入調整勘定	△1,719,804,514
前年度繰越支払資金	1,738,000,902
収入の部合計	9,018,468,174
支出の部	
科目	金額
人件費支出	3,291,362,767
教育研究経費支出	1,368,341,127
管理経費支出	589,643,573
借入金等利息支出	42,303,501
借入金等返済支出	303,344,000
施設関係支出	98,822,113
設備関係支出	154,680,786
資産運用支出	1,150,562,000
その他の支出	157,074,216
資金支出調整勘定	△97,326,426
次年度繰越支払資金	1,959,660,517
支出の部合計	9,018,468,174

消費収支計算書

（単位:円）

消費収入の部	
科目	金額
学生生徒等納付金	5,053,583,300
手数料	41,479,697
寄付金	54,959,230
補助金	504,024,892
国庫補助金	503,745,000
地方公共団体補助金	279,892
資産運用収入	103,717,370
資産売却差額	16,772,759
事業収入	268,255,569
雑収入	183,836,289
帰属収入合計	6,226,629,106
基本金組入額合計	△226,197,858
消費収入の部合計	6,000,431,248
消費支出の部	
科目	金額
人件費	3,282,488,415
教育研究経費	2,040,602,790
管理経費	633,899,847
借入金等利息	42,303,501
資産処分差額	30,115,243
徴収不能額	6,317,500
消費支出の部合計	6,035,727,296
当年度消費支出超過額	35,296,048
前年度繰越消費支出超過額	4,157,317,483
翌年度繰越消費支出超過額	4,192,613,486

貸借対照表

（単位:円）

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	27,262,963,625	27,560,824,068	△ 297,860,443
有形固定資産	18,411,637,750	18,899,108,464	△ 487,470,714
土地	4,227,871,496	4,227,871,496	0
建物	11,752,319,987	12,217,973,658	△ 465,653,671
構築物	287,683,237	277,274,488	10,408,749
教育研究用機器備品	1,023,248,932	1,063,799,673	△ 40,550,741
その他の機器備品	25,796,357	15,813,562	9,982,795
図書	1,094,351,839	1,090,451,591	3,900,248
車輌	365,902	358,996	6,906
建設仮勘定	0	5,565,000	△ 5,565,000
その他の固定資産	8,851,325,875	8,661,715,604	189,610,271
電話加入権	3,633,424	3,633,424	0
ソフトウェア	60,963,944	62,181,670	△ 1,217,726
有価証券	687,558,000	1,228,097,079	△ 540,539,079
長期貸付金	254,773,187	274,624,981	△ 19,851,794
退職給与引当特定資産	1,345,366,000	1,344,716,000	650,000
減価償却引当特定資産	6,344,216,000	5,593,654,000	750,562,000
第３号基本金引当資産	150,000,000	150,000,000	0
保証金	4,815,320	4,808,450	6,870
流動資産	2,270,740,832	2,199,674,928	71,065,904
現金預金	1,959,660,517	1,738,000,902	221,659,615
未収入金	224,710,442	375,045,762	△ 150,335,320
貯蔵品	7,283,705	5,195,986	2,087,719
短期貸付金	30,421,372	32,014,570	△ 1,593,198
立替金	5,703,028	5,387,565	315,463
前払金	18,007,844	21,780,143	△ 3,772,299
仮払金	24,953,924	22,250,000	2,703,924
資産の部合計	29,533,704,457	29,760,498,996	△ 226,794,539

（単位:円）

負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	3,172,708,617	3,430,590,969	△ 257,882,352
長期借入金	1,812,524,000	2,061,532,000	△ 249,008,000
退職給与引当金	1,360,184,617	1,369,058,969	△ 8,874,352
流動負債	1,984,540,138	2,144,354,135	△ 159,813,997
短期借入金	249,008,000	303,344,000	△ 54,336,000
未払金	86,976,191	106,481,339	△ 19,505,148
前受金	1,431,721,752	1,495,219,072	△ 63,497,320
預り金	216,834,195	239,309,724	△ 22,475,529
負債の部合計	5,157,248,755	5,574,945,104	△ 417,696,349
基本金の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
第１号基本金	27,952,069,188	27,725,871,330	226,197,858
第３号基本金	150,000,000	150,000,000	0
第４号基本金	467,000,000	467,000,000	0
基本金の部合計	28,569,069,188	28,342,871,330	226,197,858
消費収支差額の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額	4,192,613,486	4,157,317,438	35,296,048
消費収支差額の部合計	△ 4,192,613,486	△ 4,157,317,438	△ 35,296,048
科目	本年度末	前年度末	増減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	29,533,704,457	29,760,498,996	△ 226,794,539

2015年度予算について

事業活動収支予算書

（単位:円）

		科目	金額
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	4,930,753,000
		手数料	40,950,000
		寄付金	32,200,000
		経常費等補助金	456,809,000
		付随事業収入	251,648,000
		雑収入	136,171,000
		教育活動収入計	5,848,531,000
	事業活動支出の部	科目	金額
		人件費	3,167,323,000
		教育研究経費	2,026,542,000
		管理経費	692,051,000
		徴収不能額等	6,400,000
		教育活動支出計	5,892,316,000
		教育活動収支差額	△43,785,000
教育活動外収支	事業活動収入の部	科目	金額
		受取利息･配当金	80,270,000
		教育活動外収入計	80,270,000
	事業活動支出の部	科目	金額
		借入金等利息	37,456,000
		教育活動外支出計	37,456,000
		教育活動外収支差額	42,814,000
		経常収支差額	△971,000
特別収支	事業活動収入の部	科目	金額
		資産売却差額	13,400,000
		その他の特別収入	500,000
		特別収入計	13,900,000
	事業活動支出の部	科目	金額
		資産処分差額	12,500,000
		特別支出計	12,500,000
		特別収支差額	1,400,000
（予備費）			0
基本金組入前当年度収支差額			429,000
基本金組入額合計			△ 482,531,000
当年度収支差額			△ 482,102,000
前年度繰越収支差額			△ 4,192,613,486
翌年度繰越収支差額			△ 4,674,715,486

参考

事業活動収入計	5,942,701,000
事業活動収入計	5,942,272,000

2015年度には既存の施設や設備をリニューアルするための予算を重点的に確保しています。また、前年度に新たに策定した「京都精華大学 グローバルビジョン」の実現に向け、国際化推進に関する予算も多く計上しています。

それらの結果、単年度の事業活動収支は基本財産取得に関わる基本金組入等を含み4億8千万円の支出超過予算となっています。一方で、支払資金（現金・預金）は2014年度末から比べると1年間で9千万円が増加します。

当年度も単年度収支が支出超過となる予算となっていますが、引き続き、基本金組入前の収支は収入超過を確保します。

資金収支予算書

（単位:円）

収入の部	
科目	金額
学生生徒等納付金収入	4,930,753,000
手数料収入	40,950,000
寄付金収入	31,400,000
補助金収入	456,809,000
資産売却収入	300,000,000
付随事業･収益事業収入	251,648,000
受取利息･配当金収入	80,270,000
雑収入	136,171,000
前受金収入	1,437,954,000
その他の収入	456,434,442
資金収入調整勘定	△ 1,531,721,752
前年度繰越支払資金	1,959,660,517
収入の部合計	8,550,328,207
支出の部	
科目	金額
人件費支出	3,152,323,000
教育研究経費支出	1,357,930,000
管理経費支出	647,121,000
借入金等利息支出	37,456,000
借入金等返済支出	249,008,000
施設関係支出	174,845,000
設備関係支出	84,878,000
資産運用支出	800,000,000
その他の支出	106,501,191
（予備費）	0
資金支出調整勘定	△ 106,577,936
翌年度繰越支払資金	2,046,843,952
支出の部合計	8,550,328,207

NEWS & Topics

大学ニュース

在学生や卒業生の活躍、大学の取り組みなど、
京都精華大学の最新情報を紹介します。

京都市動物園内に「里山の森」を再現 子どもたちに環境教育を実施

人文学部が京都市動物園と環境教育に関わる連携協定を締結。人文学部板倉 豊ゼミの4年生15人が中心となり、今年9月にオープンした京都市動物園内「京都の森」のプロデュースに関わりました。園内に里山の森を再現し、田植えや稲刈り、ザリガニ釣りなどを体験することで、子どもたちに生態系を知ってもらおうというものです。

異文化交流の拠点「iC³（アイシーキューブ）」をキャンパス内に開設

本学には日本人学生のほか、現在28カ国、約240名の留学生が在籍しています。そうしたすべての学生たちがお互いに異なる文化や価値観を理解し、国際的な視野を身につけられるよう、学内にラーニングコモンズiC³を新設しました。学生同士による外国語の学習や、留学の相談のほか、異文化に触れる拠点として活用することができます。

日本画コース卒業生が「サントリー緑茶 伊右衛門 春ほうじ茶」のパッケージイラストを担当

460年の歴史をもつ京友禅の老舗・千總でデザイナーとして活躍中の芸術学部日本画コース卒業生、北嶋 希さんが、サントリー食品インターナショナル株式会社が今春限定で発売した「サントリー緑茶 伊右衛門 春ほうじ茶」のパッケージイラストを担当。桜を中心にした日本の春の風景がさわやかに描かれています。

ストーリーマンガコース卒業生による コミック『僕と宇宙人』出版

マンガ学部ストーリーマンガコース卒業生のNOBEL（ペンネーム）さんによるコミック『僕と宇宙人』が出版されました。この作品は、NOBELさん自身のWebサイトで発表していたところ評判をよび、集英社のWebコミックサイト「となりのヤングジャンプ」で連載が開始。コミックの出版にいたりました。

本学にてネパール大地震 被災地支援募金を実施

ネパール出身の父をもつ学生の呼びかけをきっかけに、2015年4月のネパール大地震復興支援のため、学内に募金箱を設置。また、関西サッカーリーグDivision1加盟チーム「アミティエ・スポーツクラブ京都」の協力により、学外でも募金活動を実施。学内で集まった105,031円をネパールで支援活動を行う「公益財団法人アジア協会アジア友の会」に贈呈しました。

アニメーションコース卒業生が バンド「有頂天」のミュージックビデオの アニメーションを担当

マンガ学部アニメーションコース卒業生の矢野ほなみさんが、2014年に再結成したバンド「有頂天」の楽曲『猫が歌う希望の歌』のミュージックビデオでアニメーションを担当しました。福島県の原発事故の後、町に残された猫を題材にした作品で、ガレキの中から歩き出す猫や、演奏するメンバーの姿などが、鮮やかな色彩とダイナミックな構図で描かれています。

香川県多度津町と「芸術・文化の連携・協力に関する協定書」を締結

本学教員・学生による「瀬戸内国際芸術祭2103」の参加をきっかけに、多度津町との連携協定を締結。2016年芸術祭への活動に加え、今後の離島振興も期待されています。

イタリアを拠点に絵本作家として 活躍する卒業生が絵本を出版

芸術学部（現・デザイン学部）ビジュアルコミュニケーションデザイン分野卒業生の刀根里衣さんによる絵本『おおきなおおきなにんじん』が出版されました。現在イタリアを拠点に活動する刀根さんは、ボローニャ国際絵本原画展で日本人として初めて国際イラストレーション賞を受賞するなど、注目を浴びています。

プロダクトデザイン学科の学生デザインの『てぬぐインナー』が商品化

デザイン学部プロダクトデザイン学科と株式会社ワコール、株式会社ウンナナクールとの間で取り組む産学連携プロジェクト「ときめき×未来4」から生まれたインナーウェアが商品化しました。今回商品化されたのは、プロダクトデザイン学科ライフクリエンションコース4年（制作時は3年）犬塚あかねさんデザインの『てぬぐインナー』。一番の特徴は“肌に優しいインナー”を実現するため、綿100%で天然サラシ素材の“手ぬぐい”に着目したこと。手ぬぐい専門店「かまわぬ」とコラボレーションし、肌ざわりや通気性が優れる手ぬぐい生地をインナーに取り入れています。全国の「ウンナナクール」「ウンナナクール・ランチ」「ウンナナクール ウーマン」、ワコールウェブストア、ZOZOTOWN、Amazonで販売されています。

学生アニメーションの祭典「ICAF 2015」に学生作品を出品

「Sink from the Sink」神尾 未歩

「首無し蕎麦屋」大石 祥子、上堂園 早紀

学生アニメーションの祭典として知られる「ICAF 2015」に、映像コースとアニメーションコースの学生作品が出品されました。ICAF（インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル）は、アニメーションを専門的に学ぶ全国の大学、専門学校による推薦作品を上映する学生アニメーション映画祭で、これまでの出品者は、TVアニメや、映画などのさまざまな分野で活躍しています。

現代サーカスグループ「仕立て屋のサーカス」公演会場を学生が演出

撮影：井上嘉和

ポピュラーカルチャー学部の学生が、現代サーカスグループ「仕立て屋のサーカス」公演会場の空間演出を手がけました。このプロジェクトは、ポピュラーカルチャー学部の授業「企画演習〈クライアントワーク〉」の課題として取り組んだもの。2015年7月11日から12日にかけて、京都市中京区の元・立誠小学校で行われた京都公演において、布と光を使った空間演出を担当しました。

夏の風物詩「百物語の館」を今年も開催

人文学部教員の堤邦彦と学生が企画・公演する怪談公演「百物語の館」が、今夏も京都国際マンガミュージアムで開催されました。今年で公演発足から5周年を迎え、京都府と京都市の指定文化事業にも採択されました。「百物語の館・呻唸鬼影」と題した公演では、足を運んだ多くの人びとが夏の蒸し暑さを忘れ、寒さとは違った「震え」を体験しました。

実践型インターンシップ授業でタイのHIV孤児を支援

今年度からキャリア教育においてより実践的なインターンシップに取り組む授業を開講。インターン先のひとつであるNPO法人「バーンロムサイジャパン」は、タイでつくられた衣類や雑貨を日本で販売し、その収益でタイのHIV孤児の支援に取り組む団体。参加した学生たちは、バーンロムサイ製品の販売会、販促ツールなどを企画し、本学のサテライトスペースkara-Sで展示販売会を開催しました。

洋画分野卒業生の塩田千春さんが第56回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館に出展

《掌の鍵 - The Key in the Hand》、2015年、第56回国際美術展ヴェネチア・ビエンナーレ日本館個展、写真：サニー・マンク　Chiharu Shiota, The Key in the Hand, 2015, Colour Photography, Courtesy of Chiharu Shiota

美術学部洋画分野（現・芸術学部洋画コース）卒業生の塩田千春さんが第56回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の日本館に出展。大きな注目を集めています。ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展は、2年に1度、イタリアのヴェネチアで開催される現代美術の国際展で、ヴェネチア市内に参加国がパビリオンを構え、国の代表作家の作品展示を行います。2015年の同展日本館出展作家に選出された塩田さんは、日本館の2階にある展示室と1階のピロティを使い、2艘の舟と夥しい赤い糸、そして5万本に及ぶ鍵を使って《掌の鍵》と題した新作インスタレーションを展示。美術展は11月22日まで開催しています。

イベント紹介

人文学部客員教員・内田 樹「今、大学で人文学を学ぶことの意義とは」

今回は人文学部の通常授業を公開する「授業公開デー」で行われた、人文学部客員教員の内田 樹さんによる講演の様子を紹介します。

【日時】2015年7月20日14時30分〜

4月より人文学部の客員教員に就任された内田 樹さんですが、じつは今回の講演が、本学初登壇となります。内田さんは開口一番に「客員教授になって、今月やっと学生の前で話すことができました。これで、本学にご恩を返せる」と話し、会場を和ませていました。

人文学部の1年生を中心に、授業見学に訪れた高校生、他大学の教員や学生など、200人以上の受講者を前に「今、大学で人文学を学ぶことの意義とは」と題した講演がスタート。近年の社会・人文学系学部の人気低下について、世界でも同じ現象が起きていると話し、そのうえでさまざまな識者の言葉や事件などを例に出しながら、若者にとって最優先の自己教育課題について説明しました。曰く「生き延びるために『人が嘘をついているか、いないかを見極める力』であり、その力こそが『人文学の基本』だそうで、さらに「人文学は、具体的な知識や情報ではなく、もっと行動的なもの」、知識や情報とは異なる行動的で能動的な知、「知性」の大切さを学生たちに説きました。

話は、知性を身につけるための手段へと続き、自己判断能力や識別能力といった「自身で考える力」を養うように説明。その方法として内田さんは「講義などで、知識をただ聞いているだけではなく、『必要であるか』『必要でないのか』を判断しながら吸収し、自身のなかで消化することが大切」と語りました。これらの言葉を受けとった学生たちは、それぞれの考えで消化し、今後の学びに対する姿勢を変化させることでしょう。非常に熱く、それでいて確かな人文学の未来を感じさせる講義となりました。

今後も本学では、さまざまな講演が公開されます。ぜひ一度、のぞいてみてください。

（レポート／人文学部4年生　安藤みやび）

○京都精華大学が主催するイベントを紹介。一般の方も聴講、参加が可能です。

「京都の伝統美術工芸」講座　後期日程
京都の伝統美術・工芸に関する研究者や作家、職人、デザイナー等、毎回異なる分野の講師が、各々の専門テーマで講演を行う。
【日時】
10月1日〜
2016年1月21日全15回
毎回木曜　13時〜14時30分
【場所】
京都精華大学 黎明館1階 L101
【問い合わせ先】
京都精華大学 教務課
デザイン教育担当　TEL 075-702-5129

石川九楊連続［公開］講座「日本論」
石川九楊（デザイン学部 客員教員）による連続公開講座。
【日時】
10月12日（月）、11月16日（月）、12月14日（月）　13時〜14時30分
【場所】
京都精華大学 春秋館2階S201
【問い合わせ先】
京都精華大学 教務課
デザイン教育担当　TEL 075-702-5129

芸術学部客員教員
谷川 渥マンスリー・レクチャー「美術史を美学する」
美術史を時代様式の継起として、あるいは個々の作品の図像学的意味解釈の集積としてとらえるのではなく、新たな切り口で再考・再構築することをめざす「美術史を美学する」の連続講義。
【日時】
10月29日（木）、11月24日（火）、12月17日（木）　18時〜19時30分
【場所】
京都精華大学 清風館1階C103
【問い合わせ先】
京都精華大学 教務課
芸術教育担当　TEL 075-702-5244

アートはどこに行くのか？ アートと社会の未来を考える
世界のアートシーンで活躍する多彩なトップランナーたちを招く1年間の公開連続レクチャー。
【日時】
●ラース・ニッティブ（香港「M＋」エグゼクティブ・ディレクター）
10月22日（木）18時〜19時30分
●河合政之（アーティスト）、瀧健太郎（アーティスト）、小林康夫（哲学者）
12月9日（水）16時30分〜18時30分
【場所】
京都精華大学 黎明館2階L201
【問い合わせ先】
京都精華大学 教務課
芸術教育担当　TEL 075-702-5244

デザイン学部建築学科
連続レクチャーシリーズ 可能性の空間 2015年後期プログラム
建築学科教員およびゲスト講師が空間をめぐる対談や講演を行う。
【日時】
10月2日（金）〜2016年1月29日（金）　毎回金曜　18時〜
【場所】
京都精華大学 風光館3階F331
【問い合わせ先】
デザイン学部 建築学科
E-mail architec@kyoto-seika.ac.jp

公開講座ガーデン
こどもガーデン
アートやマンガの学びの場としてキャンパスを一般にも開放。小学生向け講座「こどもガーデン」も開催。
【申込方法】
10月上旬から申込受付開始。各プログラムの日程など詳細はWebサイトにてご確認ください。
http://www.kyoto-seika.ac.jp/info/event/garden/
【場所】
京都精華大学
【問い合わせ先】
京都精華大学 社会連携センター
TEL 075-702-5263
E-mail garden@kyoto-seika.ac.jp

アセンブリーアワー
大学創立の1968年から続く公開トークイベント。あらゆるジャンルから一流のゲストを迎え、時代をつくる「生の声」にふれる。
【日時】
●山下陽光（アーティスト・デザイナー）
10月29日（木）
●塚本晋也（映画監督）
11月5日（木）
●みうらじゅん（イラストレーター）
11月19日（木）
各回　16時20分〜17時50分
【場所】
京都精華大学　友愛館 Agora
【問い合わせ先】
京都精華大学 社会連携センター
TEL 075-702-5263

精華生たちの今

毎年、さまざまなクリエイターが生まれ、飛び立っていく精華大学。
社会の第一線で活躍する卒業生と、その道へ歩む在学生を紹介します。

幸 里紗子

空中メトロ ボーカル

ポピュラーカルチャー学部音楽コース 2年生

歩みはじめた在学生

高校時代の友人と大学入学直後に組んだバンドが脚光を浴び、CDデビュー。全国ツアーを終えた幸さんにうかがいました。

①

空中メトロ

②

③

アーティスト写真①、バンドのロゴマーク②、1stアルバム「最終電車は『#』を乗せて」（2015年8月5日発売）のCDジャケット③や、ミュージックビデオなどは、デザイン学部ビジュアルデザイン学科の学生とともに制作。

―音楽を仕事にしようと思ったのはいつ？

祖母にライブハウス経営の経験があったり、母も音楽が好きだったりの音楽一家でしたから、小学生のころには、音大を出てピアノの先生になる夢がありました。それが、小3にASIAN KUNG-FU GENERATION、小5でチャットモンチーのライブに行って衝撃を受け、「バンドをするぞ」って思ったんです。

―精華大を選んだきっかけは？

じつは大学では文学を専攻したかったのですが、たまたまデザイン学部の友人が精華のオープンキャンパスに誘ってくれたんです。そこで音楽コースの著名な先生方に出会ってびっくりしました。当時のバンドの曲を聴いていただいたりして…その話を母にしたら、直感的に勧められたこともあって入学を決めました。精華は個性の強い人が多く刺激があるんですが、なぜか居心地の良さがありますね。

―今後の目標は？

漠然とですが、今はとにかくメジャーデビューを目標にしています。そのために月2・3本のライブと曲づくりをがんばっています。めざせ1日1曲！

連絡先
info@kuutyuumetro.com　http://kuutyuumetro.com/

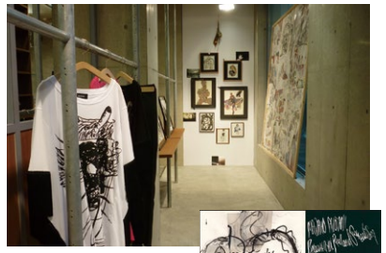
安野谷昌穂

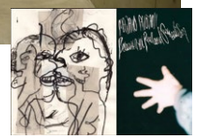
アーティスト

デザイン学部イラストコース 2014年卒業

活躍する卒業生

コラージュ、ドロイーングなどを使った作品制作を行う安野谷さん。弱冠23歳にして、人気ファッションブランドとのコラボが話題です。





CABANE de ZUCCaの2015-16 AUTUMN/WINTERコレクション発表とともに、南青山と代官山のショップにて2015年7月に個展「Between the Real and Surrealism」を開催したときの展示風景。

大学入学前からアーティストになるビジョンをもっていた安野谷さん。その感性のルーツは、小学校のころに聴いたビートルズにはじまるイギリスのファッションや音楽と、実家のある兵庫県川西市の山の中でひとりで遊んだ体験だと言います。

在学中は一人旅でヨーロッパに1カ月間、交換留学でロンドンに半年間滞在。現地のギャラリーに作品の持ち込みをしたり、日本とはまったく異なる環境で刺激を受けながら創作活動を行いました。自身の置かれた環境からインスピレーションを受けて作品制作を行う方法は、幼少期の森の中での遊び方に通じるのだとか。卒業後、東京で活動を開始してすぐのこと。持ち込みで展示する機会を経た個展会場での出会いから、ファッションブランド「CABANE de ZUCCa」の2015年秋冬のコレクションのメインビジュアルに起用されます。「作品が認められたことが何よりもうれしい。今後も作品をつくり続け、売り込んでいきます」。順風満帆なスタートを切った安野谷さんの活躍に注目を。

気分転換

釣りをして早朝から日没まで過ごすことも少なくありません。僕の大好きな自然のなかでの遊びのひとつ。

バイブル

幼少期から聴いているけれど、まだまだ僕を飽きさせてはくれないです。常に新鮮な印象を与えてくれてとても楽しめます。

The Beatles『Rubber Soul』（EMIミュージック・ジャパン）

マイブーム

ドライフラワー。自分で買った花、摘んできた花、いただいた花などを大切に置いています。時間とともに変わっていく形や匂いがとても好きです。

作業場

大量のデッサンやマテリアルで埋め尽くされています。早く大きな作業場がほしいです。

連絡先
masahoanotani@gmail.com　http://masahoanotani.blogspot.jp/

ご支援くださるみなさまへ
～ご寄付のお願い～

さまざまな支援に関して、ご寄付のご協力をお願いしております。
「学生奨学金制度への支援」、「学生生活への支援」、「文化振興活動への支援」、「国際交流活動の支援」、「教育・研究設備整備事業への支援」より寄付使途を選んでいただき、みなさまのご意向にかなう運用をしています。お申し込みは、銀行窓口、もしくは、インターネット上でのクレジットカード決済にてご寄付いただけます。この寄付金は、文部科学省から「特定公益増進法人であることの証明書」の交付を受けており、税金控除の優遇措置を受けることができます。詳細につきましては寄付募集 Web サイト、リーフレットをご覧ください。

●寄付募集 Web サイト
www.kyoto-seika.ac.jp/donate

●お問い合わせ
京都精華大学企画室寄付募集担当
TEL075-702-5201　FAX075-702-5391
E-mail:kikaku@kyoto-seika.ac.jp

卒業生の方へ

●京都精華大学の情報は Facebook でもお知らせしています。
www.facebook.com/KyotoSeikaUniversity

●「木野通信」送付先住所の変更は、企画室・木野会事務局までご連絡ください。
E-mail：kinokai@kyoto-seika.ac.jp
FAX075-702-5391

京都精華大学

人文学部
[総合人文学科]
文学専攻
歴史専攻
社会専攻

ポピュラーカルチャー学部
[ポピュラーカルチャー学科]
音楽コース
ファッションコース

芸術学部
[造形学科]
洋画コース
日本画コース
立体造形コース

[素材表現学科]
陶芸コース
テキスタイルコース

[メディア造形学科]
版画コース
映像コース

デザイン学部
[イラスト学科]
イラストコース

[ビジュアルデザイン学科]
グラフィックデザインコース
デジタルクリエイションコース

[プロダクトデザイン学科]
プロダクトコミュニケーションコース
ライフクリエイションコース

[建築学科]
建築コース

マンガ学部
[マンガ学科]
カートゥーンコース
ストーリーマンガコース
マンガプロデュースコース
ギャグマンガコース
キャラクターデザインコース

[アニメーション学科]
アニメーションコース

大学院
芸術研究科
デザイン研究科
マンガ研究科

木 野 通 信
KINO PRESS.

木野通信　第65号
2015年9月30日 発行

京都精華大学 入試広報部 広報課
〒 606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
TEL075-702-5197　www.kyoto-seika.ac.jp